



須賀神社

祭神 淳仁天皇、大山咋命、大山祇命

由緒

この神社は、元は保良神社(菅浦大明神)と称し、天平宝字8年(764年)11月の創立と伝えられています。明治42年(1909年)に小林神社(小林大明神)赤崎神社(赤崎大明神)を合祀して須賀神社と改称しました。

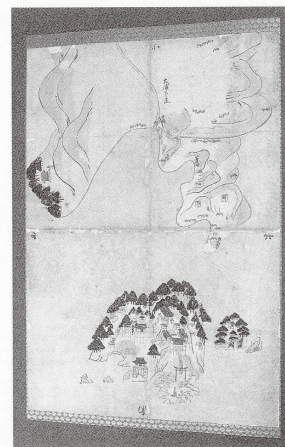
この地には古くからの伝承があり、ここは淳仁天皇御隠棲の地で保良の宮跡だと信じられています。

天平宝字2年(758年)に即位された淳仁天皇は、ただの虚位に過ぎず出される政令は孝謙上皇のものばかりであったといわれています。上皇は当初恵美押勝(藤原仲麻呂)を起用し、押勝は大いに権勢を張りましたがやがて、僧道鏡を用いるようになり、道鏡の勢威が高まることとなりました。これにつれ、よくない風評がもれ聞えるようになり、天皇は何度もこれをいさめられたことから、上皇と天皇の間は不和となりました。上皇からの寵を道鏡に奪われた押勝は、反乱を起して敗れ、類族はことごとく処罰され、天皇も廃され、大炊王(淡路の廢帝)となり淡路に遷じられて崩御されたと伝えられています。

しかし、この地では、淡路は淡海の誤ったものと伝えられています。そのため、帝が行在中、みずから榎の木をもって御躬の御肖像と后妃の御肖像を彫刻されて「何所に寿を終るも神霊必ずこの肖像に留め置く」とのべられたことから、本殿周囲を石で舟型に積み、一社を創立して廢帝を祀ったといわれています。



菅浦与大浦下庄堺絵図 [一幅]



この絵図には乾元元年(1302年)8月17日の墨書があり、堺相論の際に作成されたものと伝えられています。

絵図は、堺を朱線で示めすと共に、日差・諸河の地、庄内、堂、在家を描き、下方には竹生嶋の景観、鳥居、拝殿、本殿、三重塔、堂舎、宝巖寺の楼門等を簡略に描写しています。

これは、中世の竹生嶋とその信仰の在り方を示す貴重なものであり、昭和51年6月5日付けで国の重要文化財書跡の指定を受けています。

木造阿弥陀如来立像

阿弥陀寺の本尊として、本堂須弥壇上厨子内に安置されている像高三尺の桧一木造りの来迎阿弥陀如来立像は、その足柄に巧匠法眼行快の銘があり、昭和62年6月6日付けで国の重要文化財彫刻の指定を受けています。

作者行快は、鎌倉初期の名匠仏師快慶の高弟で、長谷寺の十一面観音像の復興では快慶を補佐し、京都大報恩寺(通称千本釈迦堂)では釈迦如来座像(重要文化財)を造立し、蓮華王院(通称三十三間堂)では千体観音像のうち第490号像に銘を残す仏師です。

